

# セカンドオピニオン

エンカレッジファーマーミング株式会社  
SDGs グリーン・ファイナンス

発行日:2024年11月27日

発行者:第四北越

リサーチ&コンサルティング株式会社

第四北越リサーチ&コンサルティング株式会社は、貸付人である株式会社第四北越銀行が、借入人であるエンカレッジファーマーミング株式会社を実施するSDGs グリーン・ファイナンスについて、「グリーンローン原則」<sup>1</sup>および「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」<sup>2</sup>の「グリーンローンに期待される事項」に整合していることを確認した。以下にその評価結果を報告する。

## 1. 借入人の概要

### (1) 事業概要

エンカレッジファーマーミング株式会社(以下、同社)の事業内容は、ミニトマトの生産および出荷、野菜苗・花苗の生産および出荷、およびミニトマトの加工品製造と販売である。

2017年に新潟市西蒲区越前浜に2ヘクタール(約6,000坪)のミニトマト専用ハウス「H&B Garden」を竣工した。このハウスではオランダ式の栽培方法と施設を使い、環境制御システムを取り入れた日本海側最大級の温室ハウスである。ハウス内の光・温度・湿度・養液をコンピューター制御し、ミニトマトの生育に最適な環境を作りだしている。このような環境で生産されるミニトマトは「甘味・程よい酸味・旨味」を堪能できる高品質なものであり、卸売業者等に納入しているほか、その中でも特に厳選したものは「H&B プレミアム」という自社ブランドで新潟県内のスーパーマーケット等で販売している。

また同社では、野菜苗や花苗の生産を行っており、主に新潟県内外にあるホームセンターへ出荷している。同社の農場は小高い丘の上にあり、海から吹いてくる風が心地よく、元気で丈夫な苗を育ててくれる。パイプハウス23棟(6,800㎡)という広大な施設で、年間に野菜苗約110万ポット、花苗約5万ポットを生産している。

加えて、同社では収穫したミニトマトを加工・販売するという6次産業化にも取り組んでいる。「ミニトマトがある生活」をコンセプトに、「働く女性・子育て家族」向け商品の企画・製造・販売を行っている。「Tomato Dining」という自社ブランドを立ち上げ、「トマトと茸のカレー」や「トマトとあさりのラーメン」などのオリジナル商品の生産・販売を行っている。

<sup>1</sup>ローン・マーケット・アソシエーション(LMA)、アジア太平洋ローン・マーケット・アソシエーション(APLMA)、ローン・シンジケーション&トレーディング・アソシエーション(LSTA)が策定

<sup>2</sup>環境省が策定

### 【H & B Garden の外観】



資料:エンカレッジファームのWebsite <https://encouragefarming.jp/>

### 【環境制御システム】



資料:エンカレッジファームのWebsite <https://encouragefarming.jp/>

### 【「Tomato Dining」の製品例】



トマトと鞍掛豆の炊込みご飯

トマトとカレーの炊込みご飯

トマトと茸のカレー

資料:Encouragefarming online shopのWebsite <https://encouragefarming.stores.jp/>

## (2) 当社の想い

同社は、以下の「当社の想い」を一般に公表している。

### 【当社の想い】

「日本の農業を勇気づけたい」という思いを込め、  
エンカレッジファームという社名にしました。

農業先進国オランダの資材と技術を用いて  
新潟市西蒲区に2ha(約 6,000 坪)のミニトマトハウスを建てました。

年間約 400tのミニトマトを収穫して皆様にお届けしています。  
ハウスの名前は「H&B Garden」です。

これは 健康(Health)と 美(Beauty)の頭文字を取りました。

ミニトマトの食味と共に健康と美を追及し

皆様に幸せになってほしい

そして農業を元気にする

これが弊社の願いです。



資料:エンカレッジファームの Website <https://encouragefarming.jp/>

この想いの下、同社はミニトマトの生産を通じて「健康(Health)と美(Beauty)」を消費者に提供すること、そして日本の農業を活性化することを目指している。

## 2. 調達資金の使途

評価対象における「調達資金の使途」は以下の観点から、グリーンローン原則等に整合している。

### (1) 対象プロジェクト

グリーンローンで調達される資金は、レタス類の栽培施設を建設するプロジェクト(以下、本プロジェクト)の資金に全額充当される。同社が建設を予定している栽培施設は栽培棟内の面積で 21,216 m<sup>2</sup>あり、年間およそ 860 万株のレタス類の収穫を見込んでいる。また「半閉鎖型ガ

ラス温室」の方式を採用し、冷暖房エネルギーや CO<sub>2</sub> 利用の無駄を少なくしたものとなっている。事業区分は、「省エネルギーに関する事業」である。

なお、調達資金の用途については、貸付人に対して事前に説明がなされている。

## (2) 環境改善効果

本プロジェクトは、「省エネルギーに関する事業」であり、CO<sub>2</sub> 排出量の削減効果が見込まれる。前述のとおり、今回建設する栽培施設は「半閉鎖型ガラス温室」の方式を採用している。通常のハウスでは天窓開放による外気導入で温湿度調整を行っている一方で、本方式では栽培エリアと隔てた空調チャンバー室を設け、外気導入および温湿度調節をチャンバー室で完結させている。これを植物下のエアダクトを通じて栽培エリアに送ることにより、栽培エリアの環境を均質に保つことができる。これにより、生育作物の品質向上および増収に寄与することが期待される。

高温時は天窓から暖気を排気するが、それ以外はハウス内の空気を循環させ、空調チャンバー室で再調整・再利用する。このサイクルによって、冷暖房エネルギーや CO<sub>2</sub> の無駄を少なくすることが可能になる。具体的には、新しく建設される栽培施設では1日あたり 1,500kg の CO<sub>2</sub> を排出する見込みであるが、うち少なくとも 750kg を外部に排出せずハウス内で再利用し、通常のハウスと比較して CO<sub>2</sub> の外部への排出量を大幅に抑制することを可能としている。

## (3) 環境面・社会面におけるネガティブな影響への配慮

本プロジェクトにおいては、CO<sub>2</sub> 排出量の削減効果が見込まれる一方で、以下のような騒音・振動、廃棄物等による悪影響に対する配慮が必要となっている。

これに対して、同社は施工業者などと一体となって、環境関連法規制の遵守を徹底する方針にある。また建設予定地の近くには住宅地などがあることから、周辺住民の日常生活や近隣事業所の事業活動などへの悪影響を最低限にとどめることなどを確認するなど、環境面や社会面へのネガティブな影響にも配慮している。さらにトラブルなどの緊急時の体制や苦情対応についても整備・確認している。

### 【想定される主なネガティブな影響】

項目	具体的な内容
騒音・振動	・建設機械の稼働、施設の稼働などによる騒音、振動
廃棄物等	・不適正な処理

資料：環境省「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」、経済産業省「発電所に係る環境影響評価の手引」

<SDGsへの貢献>

SDGsへの貢献という観点では、「半閉鎖型ガラス温室」の栽培施設の建設により、CO<sub>2</sub>の排出量削減に寄与する取組であることから、SDGs17の目標のうち「7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「11. 住み続けられるまちづくりを」「12. つくる責任つかう責任」「13. 気候変動に具体的な対策を」の4つの目標に貢献すると位置づけられる。

【SDGsの目標】

SDGsの目標	ターゲット
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>7.3 2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。</p>
 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>11.3 2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。</p>
 <p>12 つくる責任つかう責任</p>	<p>12.2 2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。</p>
 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>13.1 すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性(レジリエンス)及び適応の能力を強化する。</p>

資料:環境省「すべての企業が持続的に発展するためにー持続可能な開発目標(SDGs)活用ガイドー資料編[第2版]」  
 国連広報センターの Website [https://www.unic.or.jp/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_development/2030agenda/sdgs\\_logo/](https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_logo/)

### 3. プロジェクトの評価と選定のプロセス

評価対象の「プロジェクトの評価と選定のプロセス」は以下の観点から、グリーンローン原則等に整合している。

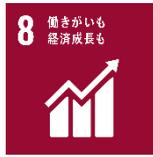
#### (1) 包括的な目標、戦略等への組み込み

同社は、前掲の「当社の想い」で述べているように、企業活動を通じて消費者などに「健康 (Health)」と「美 (Beauty)」を届けるとともに、日本の農業を活性化することを目標としている。

CO<sub>2</sub>排出量を抑制する栽培施設を建設する本プロジェクトは地球温暖化の緩和に貢献するものであり、消費者や地域住民などの健康や自然環境の維持につながるものである。また、本プロジェクトはCO<sub>2</sub>の排出を可能な限り抑制するという今後の日本の農業の指針となるべきものでもある。このことから本プロジェクトは、同社が公表している「当社の想い」の内容に合致したものであるといえる。また、その環境面での効果や目標については貸付人に対して、事前に説明している。

なお、同社では近年、以下のようなSDGsに関連する活動に取り組んでいる。

#### 【同社のSDGsの取組内容】

取組内容	SDGsの目標
<p>①地域内での循環生産</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の酪農家などから牛ふん・もみ殻を入手し、同社が使用する培土の原料として利用</li> <li>・同社が運営する太陽光発電所のソーラーパネルの下で牧草を育て、酪農家に提供</li> </ul>	 
<p>②人種・性別の隔てない採用活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人技能実習生を積極的に採用</li> <li>・男女分け隔てない採用活動を実施（作業の機械化を進めるなど、女性でも働きやすい環境を整備）</li> </ul>	  
<p>③従業員の健康管理の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員の健康診断は集団受診を実施（事業所に健康診断用の巡回バスを手配、事業所での受診を実施）</li> </ul>	 

資料: エンカレッジファーム提供

## (2) プロジェクトの評価・選定の判断基準

本プロジェクトの評価・選定においては、企業理念やSDGsの取組に合致したものであり、CO<sub>2</sub>排出量を抑えた工法を採用するという環境負荷が低減できることを考慮した。

また、本プロジェクトにおける施工段階においても潜在的な環境リスクは小さく、その対応策を講じている点についても考慮した。

## (3) プロジェクトの評価・選定の判断を行う際のプロセス

本プロジェクトについては、上記基準に加えて、環境経済効果や環境関連法規制対応の遵守状況、施工現場の周辺住民、近隣事業所の関係性、トラブルなどの緊急時の体制、苦情対応制度などをふまえ、同社の取締役会が評価・選定し、最終的に意思決定した。

## 4. 調達資金の管理

評価対象の「調達資金の管理」は以下の観点から、グリーンローン原則等に整合している。

調達資金は、借入人および第四北越銀行の間で締結された金銭消費貸借証書にて、対象となるグリーンプロジェクトとの紐づき、請求書などのエビデンスや支払先情報を全て確認した上で、第四北越銀行とともに資金の充当状況を管理する。

## 5. レポーティング

評価対象の「レポーティング」は以下の観点から、グリーンローン原則等に整合している。

調達資金が本プロジェクトに全額充当されるまでの間、年に1回の頻度で、借入人は資金の使用状況、プロジェクトの最新状況が確認できる資料を貸付人である第四北越銀行に提出する。

以上

## 第四北越リサーチ&コンサルティング 会社概要

社名	第四北越リサーチ&コンサルティング株式会社
代表者	代表取締役 柴山圭一
所在地	〒950-0087 新潟市中央区東大通2丁目1番18号 だいし海上ビル
業務内容	経営コンサルティング事業、経済調査・研究事業、人材育成支援事業
電話	025-256-8110
FAX	025-256-8102

## 留意事項

### 1. 第四北越リサーチ&コンサルティングの第三者意見について

本文書については貸付人が、借入人に対して実施する SDGs グリーン・ファイナンスについて、ローン・マーケット・アソシエーション (LMA)、アジア太平洋ローン・マーケット・アソシエーション (APLMA)、ローン・シンジケーション&トレーディング・アソシエーション (LSTA)「グリーンローン原則」、環境省「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」への整合性、準拠性、設定する目標の合理性に対する第三者意見を述べたものです。

その内容は現時点で入手可能な公開情報、借入人から提供された情報や借入人へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、当該情報の正確性、実現可能性、将来における状況への評価を保証するものではありません。

第四北越リサーチ&コンサルティングは当文書のあらゆる使用から生じる直接的、間接的損失や派生的損害については、一切責任を負いません。

### 2. 第四北越銀行との関係、独立性

第四北越リサーチ&コンサルティングは第四北越フィナンシャルグループに属しており、第四北越銀行および第四北越フィナンシャルグループとの間および第四北越フィナンシャルグループのお客様相互の間における利益相反のおそれのある取引等に関して、法令等に従い、お客様の利益が不当に害されることのないように、適切に業務を遂行いたします。

また、本文書にかかる調査、分析、コンサルティング業務は第四北越銀行とは独立して行われるものであり、第四北越銀行からの融資に関する助言を構成するものでも、資金調達を保証するものでもありません。

### 3. 第四北越リサーチ&コンサルティングの第三者性

借入人と第四北越リサーチ&コンサルティングとの間に利益相反が生じるような、資本関係、人的関係などの特別な利害関係はございません。

### 4. 本文書の著作権

本文書に関する一切の権利は第四北越リサーチ&コンサルティングが保有しています。本文書の全部または一部を自己使用の目的を超えて、複製、改変、翻案、頒布等を行うことは禁止されています。